

プロジェクト名：タンザニア国全国灌漑マスタープラン調査（M/P）

（調査期間：2001年12月～36ヵ月、担当業務：営農土地利用計画）

調査背景

タンザニア国において1994年に策定された国家灌漑開発計画は、その後の低い実施進捗度とタンザニア開発ビジョン2025、農業畜産政策、農業セクター開発戦略等の上位計画との整合性を図る必要性から、その計画を見直す必要性が生じてきた。こうした状況の中で、2001年にタンザニア政府は国家灌漑開発計画の改訂版である全国灌漑マスタープランの策定を我が国に要請してきた。その結果、タンザニア本土及びザンジバルを対象とした灌漑マスタープランの策定、モデル地区及び課題に係る行動計画の策定、事業実施に当たりボトルネックとなる項目に対する実証を目的とする調査を実施することとなった。

調査概要

本調査は開発政策、灌漑・水管理、営農・土地利用、組織・制度、農業生産基盤の5人の専門家で構成された調査団によって実施され、フェーズⅠではインベントリー調査及びPCMワークショップの結果に基づいて全国レベルの灌漑開発計画を策定した。ここでは、水資源、土地資源、社会経済状況に基づいた灌漑ポテンシャル地域の選定も行った。フェーズⅡではモデル地区においてRRAを実施し、その結果に基づいて行動計画を策定した。ここでは、ソフト分野とハード分野の調和を考慮に入れて、課題別改良計画と灌漑地区別開発計画のバランスが取れた行動計画の策定を心掛けた。さらに、事業実施に当たりボトルネックとなる項目に対して実証調査を実施した。

担当事項

- 営農・土地利用に係る既存情報、資料の収集及び解析。
- 水資源、土地資源、社会経済状況に基づいた灌漑ポテンシャル地域の選定。
- 営農・土地利用に係る課題の分析及びマスタープランの策定。
- モデル地区の現地調査及び調査結果の解析に基づいた行動計画の策定。
- 実証調査項目の提案及び実証調査の実施。

